

サラダナ栽培におけるセル成型苗利用技術

〔要約〕サラダナ栽培にセル成型苗を利用する場合、1月から3月どりの作型では大セル苗（容量40m<sup>3</sup>、セル数100程度）、4月から12月どりの作型では、大セル苗または中セル苗（容量約10m<sup>3</sup>、セル数200程度）を用いると在圃期間が短く、年間に8～9回作付できる。

園芸研究所・野菜花き部・野菜栽培研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	葉茎菜類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

サラダナは、現在、ペーパーポット苗の自家育苗が行われ、施設内で周年的に5作程度生産されている。しかし、育苗と本圃の管理が競合するため、現行ではこれ以上、作付回数を増すことは困難である。また、床土が原因となる育苗の失敗等問題が残されている。そこで、人工培土とトレイを使用し大量に苗を生産できるセル成型苗（以下セル苗）を用いセルの大きさの違いによる在圃期間を明らかにし、現行より高度な作付方式を確立する。

〔成果の内容・特徴〕

- ①セル苗を移植する栽培方法では、セル容量が大きいほど育苗日数が長くなるが、在圃日数は短くなるため、年間作付回数及び収量が多くなり、大セル苗では年間9作、中セル苗では8作作付できる（表1）。
- ②低温期には大セル苗（容量約40m<sup>3</sup>、セル数100程度）を用いることにより、セル容量が小さい苗よりも在圃日数を短縮できる（表2）。
- ③高温期には大セル苗または中セル苗（容量約10m<sup>3</sup>、セル数200程度）を用いることにより、小セル苗（容量約4m<sup>3</sup>、セル数400程度）よりも在圃日数を短縮できる（表3）。
- ④1月から3月どりの作型では大セル苗を用いることにより、在圃期間60日程度で収穫でき、4月から12月どりの作型では大セル苗または中セル苗を用いることにより、30日から50日で収穫が可能となる。中セル苗の場合、高温期では約20日間、低温期では約40日間の育苗日数が必要である（図1）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①新しい育苗方法として周年的に利用できる。
- ②高温期には苗の徒長を抑え、根鉢の形成を促進するには肥料成分量の少ない軽い気相率の高い培土を用いる。
- ③セル苗は育苗時に乾燥し易いので、こまめなかん水管理が必要である。
- ④春季は抽台の発生が、また夏季はチップバーンの発生が多くなるため、品種の選定に注意する。
- ⑤苗を購入する場合、大セル苗は価格が高いため、経営的効果を試算した上で利用する。

[具体的データ]

表1 育苗容器のセルの大きさとサラダナの年間作付回数及び収量(平成2年～3年)

セル容量	平均		苗質		平均年間 在圃日数	年間 作付回数	年間 収量 t/10a
	育苗日数 日	葉数 枚	根鉢形成	平均			
小セル苗	4	17.9	2.1	6.8	50.4	7	21
中セル苗	10	26.6	4.2	7.6	41.9	8	22
大セル苗	38	27.8	5.9	6.3	37.0	9	27

注) ①根鉢の形成程度：1(無)～10(良好)(達観による10段階評価)  
 ②育苗条件：小セル苗ーセル数406角、中セル苗ーセル数200角、  
 大セル苗ーセル数98角のトレイ、園芸培土使用

表2 12月定植におけるセルの大きさとサラダナの生育(平成2年～3年)

セル容量	育苗日数	葉数	根鉢形成	在圃日数	調整重
	日	枚		日	g
小セル苗	20	1.4	8.0	79	118
中セル苗	25	3.2	6.0	77	112
大セル苗	35	6.0	6.0	59	123

注) 12月10日定植(共通)

表3 6～9月定植におけるセルの大きさとサラダナの生育(平成2年～3年)

セル容量	育苗日数	葉数	根鉢形成	在圃日数	調整重
	日	枚		日	g
小セル苗	12	2.2	4.7	44	131
中セル苗	20	4.4	8.0	34	107
大セル苗	24	6.7	6.0	31	111

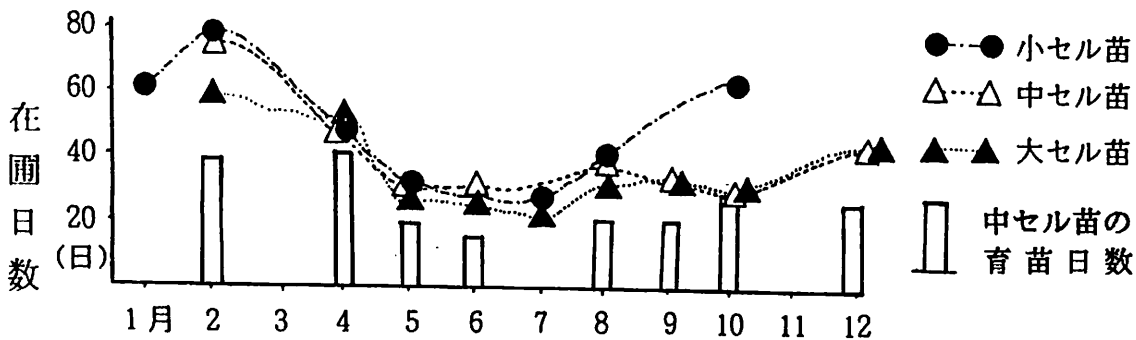


図1 セル苗の大きさと育苗日数及び在圃日数(平成2年～3年)

注) 月：収穫した月を表す

[その他]

研究課題名：作付体系の改善

予算区分：経常

研究期間：平成5年度(平成1～5年)

研究担当者：月時和隆、山本幸彦、渡辺幸恵、豆塚茂実

発表論文等：平成3～4年度 園芸研究所野菜花き部野菜栽培研究室野菜試験成績書